

おおみち

第103号

平成30年(2018年)4月1日
滋賀県立安土城考古博物館

平成30年度春季特別展

武將たちは何故、 神になるのか

神像の成立から
天下人の神格化まで

平成30年
4月28日(土)
— 6月17日(日)

●開館時間

午前9時～午後5時

ただし、入館は午後4時30分まで

●休館日

月曜日

ただし、4月30日は開館

●入館料

大人 890円(680円)

高大生 630円(460円)

小中生 410円(310円)

県内高齢者(65歳以上) 450円(340円)

※()は20人以上の団体料金です。

◆「信長の館」への共通券

大人 1180円 / 高大生 710円

小中生 430円 / 県内高齢者(65歳以上) 840円

大津曹田大神坐像(厨子入) 大塚理智院



近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

春季特別展

武將たちは何故、神になるのか

— 神像の成立から天下人の神格化まで —

人を神として祀る神社を、人霊奉祭社と呼んでいます。こうした神社は日本全国各地に多々存在しており、日本の神々の中で、人物神はきわめて大きなウエイトを占めています。

本展では、なぜ人が神として祀られるのか、古代における神像の成立から、宗教史的な転機となった近世初頭における天下人の神格化まで、神・仏・人との関係性の道筋を辿り、多彩な肖像作品や関連の遺宝(約八五件展示。うち重文八件、府・県指定文化財一〇件)を通して探ってゆきます。展示は、以下の通り四部構成とします。

- 第一部 姿なきわが国の神々が、仏像の影響を受けて神像として多様な姿をあらわす
- 第二部 神仏習合思想によって、神道曼荼羅や懸仏などが作られ、神・仏の一体化が進む
- 第三部 皇族・貴族・高僧への崇敬が、神・仏の化身・垂迹といった神格化に発展する
- 第四部 このような流れが、信長・秀吉・家康それぞれの天下人の神格化へと展開する



△絹本着色八幡垂迹曼荼羅図 (京都・龍安寺)

《主な展示資料》

第一部

- ◎ 木造阿弥陀如来立像(鎌倉時代) 滋賀・観音寺
- ◎ 木造毘沙門天立像(平安時代) 滋賀・宗泉寺
- △ 木造僧形神坐像(平安時代) 滋賀・本隆寺
- △ 木造男神坐像(平安時代) 京都・観音寺
- ・ 木造伝女神坐像(南北朝時代、像内納入品とも) 大阪・壺井八幡宮

第二部

- ◎ 絹本着色山王宮曼荼羅図(鎌倉時代) 滋賀・百濟寺
- △ 絹本着色熊野本地仏曼荼羅図(南北朝時代) 滋賀・西教寺
- △ 絹本着色八幡垂迹曼荼羅図(鎌倉時代) 京都・龍安寺
- △ 絹本着色春日宮曼荼羅図(鎌倉時代) 滋賀・石山寺
- ・ 銅造山王九社本地仏像懸仏(鎌倉時代) 大阪・個人

第三部

- ・ 木造天神坐像(南北朝時代) 滋賀・菅山寺
- ・ 絹本着色藤原鎌足像(室町時代) 奈良・談山神社
- ◎ 絹本着色慈恵大師像(鎌倉時代) 兵庫・鶴林寺
- ・ 絹本着色法然上人像(南北朝時代) 兵庫・十輪寺

第四部

- ・ 木造織田信長坐像(明治時代) 滋賀・浄厳院
- ・ 紙本着色織田信長像(桃山時代) 京都・報恩寺
- ・ 木造豊国大明神坐像(桃山時代、厨子入) 大阪・理智院
- ・ 絹本着色豊国大明神像(桃山時代) 京都・等持院
- ・ 木造東照大権現坐像(江戸時代) 愛知・大樹寺
- ・ 紙本着色東照大権現霊夢像(江戸時代、徳川家康・家光対面像) 東京・徳川記念財団

※◎は重要文化財、△は府・県指定文化財。

※会期中展示替えを行います。



木造織田信長坐像(滋賀・浄厳院)

特別展記念講演会・関連講座

「神になった人々」

講師：小松和彦氏(国際日本文化研究センター所長)
日時：5月13日(日) 13時30分～15時
※当日先着順、定員一四〇名、五〇〇円

「徳川家康神格化への道」

講師：曾根原理氏(東北大学史料館)
日時：5月27日(日) 13時30分～15時
※当日先着順、定員一四〇名、二〇〇円

水曜神仏語り講座

「神像彫刻の成立と展開」

講師：山下立(当館学芸員)
日時：5月9日(水) 13時30分～15時
「豊臣秀吉の神格化と豊国大明神像成立の意義」
講師：山下立(当館学芸員)
日時：6月13日(水) 13時30分～15時

※当日先着順、定員一四〇名、二〇〇円

ギャラリートーク

ご案内：山下立(当館学芸員)
日時：5月20日(日) 13時30分～14時15分
※参加には特別展への入館料が必要です。

収蔵資料紹介

川瀬馬場遺跡(彦根市)出土 人形土製品

弥生時代中期、当館蔵

川瀬馬場遺跡は、昭和五七年(一九八二)に県立河瀬高等学校建設工事に伴って初めて発掘調査され、弥生時代中期中葉から後葉の掘立柱建物跡14棟などが検出された遺跡です。人形土製品は、この第1次調査の際に出土した遺物ですが、周辺におけるその後の発掘調査でも多くの掘立柱建物跡が検出され、掘立柱建物のみで構成される大集落だったようです。

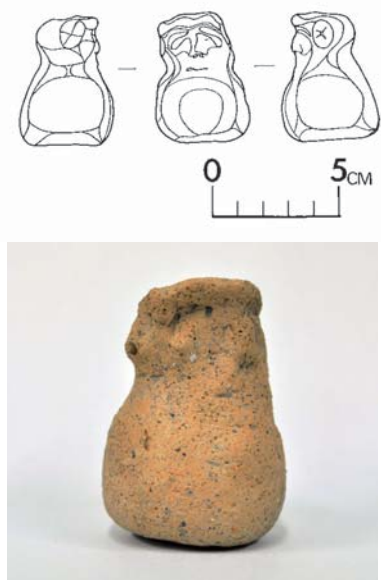
本品は掘立柱建物の柱穴から出土したもので、人面を立体的に表現した小型の造形品です。顔の表現を詳しく見てみると、目と耳はくぼませ、鼻は突出しているのに対して、口はへら状の工具で浅く刻まれているものの、やや不明確です。中央のくびれは、ダルマ人形と同様に首を表現した部分で、体部と考えられる下半部には手足の表現は無く、底部は平坦に造られています。高さは五・三cm、幅三・八cm、奥行三・八cmを計り、重さは約五八gです。

人物を表現した土製品といえば、縄文時代の土偶や古墳時代の人物埴輪が有名です。これに対して、弥生時代の土製品では、土偶の系譜を引く土偶形容器や人面付土器が東日本を中心に知られています。本品に比べて大型であり、器としての用途を持つという点でも本品とは性格が異なります。

滋賀県内では、本品のほかには市三宅東遺跡(野洲市)で出土した人形土製品が知られています。中期前半頃の遺物で、川瀬馬場遺跡例よりも細身に作られています。最近では、大阪府茨木市の倍賀遺跡でも発掘例があり、顔を詳しく表現した土製品として話題を集めました。大きさは高さ

五・九cm、胴部径三・〇cmと川瀬馬場遺跡例に近いサイズで本品と同じく弥生時代中期の事例です。弥生時代に人物を造形した遺物といえば、木偶が大中の湖南遺跡(近江八幡市)や湯の部遺跡(野洲市)などで出土しています。このような木偶が、弥生時代になって新たに大陸から伝来した文化要素と考えられているのに対して、西日本で散見される本品のような小型の人形土製品は、縄文時代の土偶の系譜を引くものと推定されていますが、詳しいことは充分に分かっていません。

本品は第1常設展示室で、以前に資料紹介した赤野井湾遺跡(守山市)出土の土製人形などとともに常設展示していますので、どうぞ実物をご覧ください。(田井中洋介)



開館25周年記念シンポジウム
「安土城考古博物館の新たな地平を切り拓く」

当館が25周年を迎えたことを記念するシンポジウムが、1月14日(日)の午後、お隣の文芸セミナリヨで開催されました。

折あしく前日からの大雪で、ご来場自体が難しい状況でしたが、それでも当館を応援下さる皆さんが、百名ほど駆けつけて下さいました。

最初の基調講演では、滋賀県立大学の中井均教授が、城郭研究の歴史から最近の研究成果までを、映像を示しながら熱心にお話しく下さいました。

続くパネルディスカッションでは、当館のこれからや期待することについて、パネリストの皆さんそれぞれのお立場から、忌憚のない意見をいただきました。会場からは温かい励ましの声や厳しいご指摘なども頂戴しました。それらを元に、今後も魅力ある博物館を目指し、精進していきたいと思えます。



博物館の主な催し

			企 展 示	画 室	第2常 設 展 示 室
4 月	7日(土)	企画展関連博物館講座② 「收藏品から語る戦国の歴史」 講師：高木叙子（当館学芸員） 13時30分～15時【有料】			
	29日(日)	春のお茶会 10時～15時【当日受付・定員100名・有料】			
5 月	3日(木)～6日(日)	親子写生大会 10時～16時【無料・参加者には博物館グッズ進呈】			
	9日(水)	水曜神仏語り講座⑥ 「神像彫刻の成立と展開」 講師：山下立（当館学芸員） 13時30分～15時【有料】			
	13日(日)	春季特別展記念講演会 「神になった人々」 講師：小松和彦氏（国際日本文化研究センター所長） 13時30分～15時【有料】			
	18日(金)	金曜城郭講座① 講師：滋賀県教育委員会文化財保護課城郭調査係職員 13時30分～15時【有料】			
	19日(土)	城郭探訪「観音寺城を歩く」 案内：当館学芸員【要予約・有料】			
	20日(日)	ギャラリートーク「武将たちは何故、神になるのか」 ご案内：山下立（当館学芸員） 13時30分～14時15分【要入館料】			
	26日(土)	城郭探訪「安土城を歩く」 案内：当館学芸員【要予約・有料】			
	27日(日)	春季特別展関連講座 「徳川家康神格化への道」 講師：曾根原理氏（東北大学史料館） 13時30分～15時【有料】			
6 月	9日(土)	ギャラリートーク「織田一族と摠見寺」 ご案内：高木叙子（当館学芸員） 13時30分～、15時～【要入館料】			
	13日(水)	水曜神仏語り講座⑦ 「豊臣秀吉の神格化と豊国大明神像成立の意義」 講師：山下立（当館学芸員） 13時30分～15時【有料】			
	15日(金)	金曜城郭講座② 講師：滋賀県教育委員会文化財保護課城郭調査係職員 13時30分～15時【有料】			

4月28日(土)～6月17日(日)
春季特別展「武将たちは何故、神になるのか」
—神像の成立から天下人の神格化まで—

6月2日(土)～7月16日(月・祝)
特別陳列「織田一族と摠見寺」

※講座の会場はすべて当館セミナールームです。

※事情により行事内容や日時が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

おおてみち 第103号
平成30年(2018年)4月1日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678 TEL0748-46-2424
E-mail: gakugeti@azuchi-museum.or.jp URL: http://www.azuchi-museum.or.jp